

江戸の隠れた 観光名所～ 伊藤伊兵衛家を 知っていますか？

[ご案内]
紅ミュージアム年間スケジュール

豊国・二代広重 画「江戸自慢三十六興 深川八まん牡丹」・
国立国会図書館所蔵
富岡八幡宮の別当永代寺(現深川公園)は、桜と牡丹の名所として、
春に半月ほど庭を一般公開した。



江戸の隠れた観光名所～伊藤伊兵衛家を知っていますか？

江戸に園芸ブーム到来

江戸時代の初め、園芸とは將軍や大名、武家などが気に入った品種を取り寄せてコレクションするといったものであったが、江戸時代後期になると、緑日や植木市の発達、植木鉢の量産化、園芸書・花暦の普及、愛好家仲間(連)のネットワーク、花合せ(コンクール)などの要因が重なり庶民にまで普及する。

園芸の街”染井“

なかでも江戸時代中期から明治時代にかけて、武蔵国豊島郡上駒込村染井(現豊島区駒込)は園芸の街として栄えていた。染井通り沿いには、多くの植木屋が軒を連ねており、嘉永七年(一八五四)に刊行された「染井・王子・巢鴨辺絵図」には、「此辺染井村 植木屋多シ」と記載されている。

また二代広重画・「江戸名勝図会 染井」にも、「染井村ハ植木屋多く、

種々の植木を造り、是を鉢に植て商ふ、此地は霧島つつじの名所にて、其紅艶を愛する輩ここに群遊す、花の頃は満庭紅ひを灌がごとく、夕日に映じて錦編林をなすがことし」との説明書きとともに、植木屋の入口部分の様子が鳥瞰図的に描かれている。



染井通りの北側に「植木屋多シ」とみえる。「染井・王子・奥鴨辺絵図」(部分)嘉永七年(1854)

染井村がつつじの名所になるまで

「江戸名勝図絵 染井」の説明書きにある通り、とくに染井村はキリシマツツジ

の栽培・名所として賑わっていた。キリシマツツジは、九州に自生するヤマツツジとミヤマキリシマの交配種といわれ、寛永年間(一六二四〜一六四四)に薩摩国で発祥した。その一本を正保年間(一六四四〜一六四八)に大坂で取木の方法で増やし、五本を京都へ送る。これら五本はそれぞれ「富士山」「鱗角」「面向」「無三」「唐松」と名付けられた。なかでも美しくかつ「富士山」と「鱗角」は御所の庭に植えるために京都に留め、残る三本は、明暦三年(一六五七)に染井村へ送られた。

現在、春になるとJR駒込駅の線路沿い一面に見事なツツジが咲くのも、この辺り一帯がツツジの名所だったことに由来する。

その名も霧島屋伊兵衛

染井村を園芸の街として一躍観光名所にした立役者が、江戸の園芸における代表的な植木屋伊藤伊

兵衛家である。それは一九世紀初頭に板行された『絵本江戸桜』のなかで、「江都第一の植木屋」と紹介されたほどである。

初代伊藤伊兵衛はもとは、染井に所在した津藩藤堂家下屋敷・抱屋敷に入りする「露除」だったといわれている。「露除」とは植物を冷たい露から守る人という意味で、大名屋敷などの庭の掃除をする役目であった。藤堂家三代藩主藤堂高久は、園芸に関心が高く、屋敷の庭に花壇を造り季節の樹木・草花類を植え替えさせて楽しむことが趣味であった。伊兵衛は、それらの不用になった植木類を自分の庭に運び、栽培していくうちに多くの植物を扱うようになり、やがて植木屋に転業したと考えられている。伊藤家はこののち代々、主が「伊兵衛」を名乗り、幕末まで江戸園芸の発展に大いに関わる。

とくに、三代目伊藤伊兵衛三之丞は、染井村にもたらされたツツジ類の栽培を得意とし、キリシマツツジにあやかり自らを「霧島屋」と名乗った。

ツツジ・サツキの栽培に長けていた伊兵衛三之丞は、元禄五年(一六九二)、ツツジの異種を集大成した『錦繡枕』を板行する。『錦繡枕』は、「誰にでも分かりやすく」という観点で、ツツジ類一七三種、サツキ類一六一種の品種解説と栽培管理法を挿図付きで詳細に記載した園芸書である。

その三年後に板行した『花壇地錦抄』もまた分かりやすさを考慮した園芸書で、江戸園芸のバイブル的書物である。ボタン、ツバキ、サザンカ、ツツジ、サツキ、サクラなどの花木類を始め草本類ではキク、ナデシコ、ユリ、ラン、アサガオなどの品種の特徴が記され、さらに植え替え、培養土、肥料を草木の種類別に紹介している。



「江戸名勝図会 染井」二代広重画・静岡県立中央図書館所蔵

このように、三代目の伊兵衛三之丞の活動は、樹木・草花類の栽培・管理からそれらの展示・販売、大名屋敷の庭園管理、さらに

このように、三代目の伊兵衛三之丞の活動は、樹木・草花類の栽培・管理からそれらの展示・販売、大名屋敷の庭園管理、さらに

自らの経験をもとにした園芸書の執筆までと多岐に亘っている。まさに「京都第一の植木屋」の名にふさわしい活躍ぶりである。

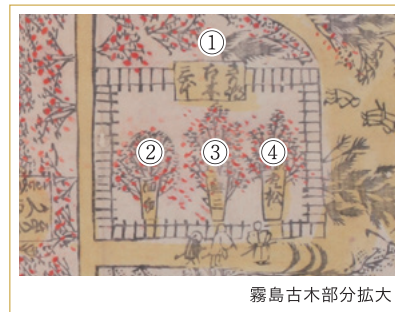
キリシマツツジの古木はどこへ行った？

さて、薩摩国から大坂を経て染井村に送られた「面向」「無三」「唐松」の三本の貴重なキリシマツツジは、その後どこに収まったのだらうか。それを確認できる資料に「武江染井翻紅



成立年代は享保末期(1725~1735年頃)かと思われる。
「武江染井翻紅軒霧島之図」近藤助五良清春画・豊島区立郷土資料館所蔵

軒霧島之図」という絵図がある。「武江染井翻紅軒霧島之図」とは、五代目伊藤伊兵衛政武家の庭空間を描いた絵図で、敷地の入口から奥までが二二〇m、幅が一〇〇m程というので二二ha程の面積があったと思われる。この図の上部中央を見ると、柵で囲まれ「きり嶋古木三本」(①)、「面向」(②)、「無三」(③)、「唐松」(④)と記されており、経緯は不明



霧島古木部分拡大

だが、なんと薩摩国から来た霧島古木は、享保期には伊藤伊兵衛家の庭で管理されていたことが分かる。

江戸のオープンガーデン・伊藤伊兵衛の庭

この絵図で朱色に塗られている草花は全てツツジであり、これは「伊兵衛家の庭が朱色のキリシマツツジで満たされる三月後半(現在の五月上旬頃)に板行された花見遊覧客向けの『案内チラシ』である」と研究者の間で評されている。この「案内チラシ」にはブロックごとの案内書きはもちろんのこと、左下の「龍虎つくり木」とある説明書きの横に、龍と虎に形作られた植木、また池が描かれるなど様々な見どころがあり、庭というより植物園のようである。人物も多く描かれているが、草花を見ている人のほか、宴会をしているような人たちまでいる。この当時の植木屋の庭は、植木を購入する目的だけでなく、植木屋に花見や遊山で出かける人も多かった。伊藤伊兵衛家に限らずどの植木屋でも

庭を自由に開放し、見物客を呼び込んでおり、それが染井が園芸の街として賑わった誘因である。

近年、イギリスの文化を取り入れ、個人の庭を一定期間公開するオープンガーデンというイベントが流行っているらしいが、江戸時代にはすでにオープンガーデンに相当する事象が行われていたといえるのではないだろうか。イギリスの植物学者ロバート・フォーチュンは、自身の著書『幕末日本探訪記 江戸と北京』の中で「花を愛で育てることを楽しみとすることを文化のパロメーターとすればこの国の人々は自国の庶民よりはるかにすぐれている」と書き残している。

オープンガーデンの国の人々にこのように賞賛されるとなんだか嬉しい。

花見や遊山で出かける人も多かった。伊藤伊兵衛家に限らずどの植木屋でも

※秋山伸二〇三「江戸北郊における植木屋の庭空間―伊藤伊兵衛家・武江染井翻紅軒霧島之図の検証―」『地方史・民衆史の継承―林史学から受け継ぐ―』など

◆紅ミュージアム年間スケジュール

講座申込み方法: 電話(03-5467-3735)・メール(mail@isehan.co.jp)・来館時

展覧会・講座		休館日
2017年4月		3(月)、10(月)、17(月)、24(月)
5月	27(土) 「江戸の化粧再現講座」～美颜マッサージと白粉化粧～ 14:00～15:00 講師:当館学芸員 定員30名・参加費500円(紅染めの和菓子付き) 27(土)～ 館藏品紹介 期間限定ミニ展示・「キスミーシャインリップ展」開催 (～7/9(日))	1(月)、8(月)、15(月)、 22(月)、29(月)
6月	25(日) 「江戸の灯りワークショップ」～和紙でオリジナル行灯を作る～ 14:00～16:30 講師:冬野朋子氏(アトリエ「PAPERMOON」主宰) 定員10名・参加費4,000円	5(月)、12(月)、19(月)、26(月)
7月	～9(日) ミニ展示終了	3(月)、7(金)創業記念日、10(月)、 18(火)振替、24(月)、31(月)
8月	3(木) 夏休みこども自由研究「紅ってなあに」 ①10:30～12:00 ②14:30～16:00 講師:当館エデュケーター 定員各5組10名(小学3・4年生とその保護者)・参加費無料 9(水) 夏休みこども自由研究「赤色?黄色?? 紅染めにチャレンジ!」 14:00～16:00 講師:当館エデュケーター 定員8組16名(小学生とその保護者) 参加費500円/組(ハンカチと和紙の染色体験) 18(金) 夏休みこども自由研究「紅ってなあに」 ※募集内容は8/3と同じ	7(月)、14(月)、21(月)、28(月)
9月	24(日) 「和のパーソナルカラー講座」 14:00～16:00 講師:吉田雪乃氏(一般社団法人伝統色彩士協会 代表) 定員10名・参加費2,000円	4(月)、11(月)、19(火)振替、 25(月)
10月	21(土)～ 企画展 (仮)「和」からうまれた「洋」風美～近代化粧品と舶来エッセンス」開催 (～12/10(日)) ※企画展関連講座・イベント情報につきましては、別途企画展チラシまたは 当館HP等でご案内します。 28(土) 「江戸の化粧再現講座」～秋の外出時の化粧～ 14:00～15:00 講師:当館学芸員 定員15名・参加費500円(紅染めの和菓子付き)	2(月)、10(火)振替、16(月)、 19(木)～20(金)展示替えのため、 23(月)、30(月)
11月		6(月)、13(月)、20(月)、27(月)
12月	～10(日) 企画展終了	4(月)、11(月)、18(月)、25(月)、 28(木)～31(日)年末のため
2018年1月	27(土) 「江戸の化粧再現講座」～白粉化粧・比較編～ 14:00～15:00 講師:当館学芸員 定員30名・参加費500円(紅染めの和菓子付き)	1(月・祝)～4(木)年始のため、 9(火)振替、15(月)、22(月)、 29(月)
2月	12(月・祝) 「紅色和菓子でバレンタイン」～御料紅(食紅)で作る季節の和菓子～ 14:00～16:00 講師:池田功氏(御菓子司 一炉庵店主) 定員15名・参加費2,000円(和菓子3種製作、保険料込み)	5(月)、13(火)振替、19(月)、 26(月)
3月	10(土) キュレーターズトーク「化粧『モノ』語り～鏡台編」 14:00～15:30 講師:当館学芸員 定員30名・参加費500円	5(月)、12(月)、19(月)、26(月)

*都合により、内容の変更が生じる場合がございますので、あらかじめご了承ください。臨時休館情報につきましては、当館HPをご確認ください。

Since 1825
伊勢半本店  ミュージアム

●開館時間/10:00～18:00 ●休館日/毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は、翌日が休館日となります)

東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F TEL&FAX:03-5467-3735 東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」下車B1出口より徒歩12分

<http://www.isehanhonten.co.jp>